

はじめのいっぽ



早期教育支援部だより
令和7年1月

年が明け、子ども達の元気な声とともに新しい一年が始まりました。寒い日が続きますが、皆様お変わりないでしょうか。

冬を迎えても、本校幼稚部の子ども達は寒さに負けず、元気に外遊びを楽しんでいます。本校舎がある文京区では、ぐんと気温が下がった日であれば日陰の水たまりに氷が張ることがあります。本校寄宿舍の前には大きな水がめがあり、子ども達が手を伸ばしたり顔を近づけて見たりする際、ちょうど良い高さに水面があります。特に寒い日の朝、幼稚部の教員は水がめに氷が張っていることを確認すると、登校してきた子ども達を誘って水がめを見に行きます。そうと手を伸ばすと、指先がしびれるくらいの冷たさに、みんな驚いて手を引っ込めてしまいます。それでも、触れたときの氷の感触に気付き「あれ？なんだろう」と関心が高まります。「冷たいからもう触らないよ」という子もいる中、そっと手を伸ばして薄い氷の板を手にした子は、「氷だー！」と嬉しそうに持ち上げています。大きな氷の板を上手に持ちあげる友達に触発され、初めは手を引っ込めていた子も、徐々に手を伸ばし、触れ、持ち上げて「冷たいー！」と言いながらも笑顔を見せるようになります。触れることで、氷は水の表面だけに張っていること、その冷たさ、力加減をしないと割れてしまうもろさ、そして触っているうちに解ける性質等、様々なことに気付きます。「コップの氷と違うね」と形に着目して話す子もいました。お部屋へ戻る帰り道、グラウンドにある水たまりに手を伸ばした子は「ここには氷がないね」と教えてくれました。日陰と日なたの違いによるものですが、経験から「なんでだろう？」と疑問をもつこと、「わかった！」「これは？」といった関心・意欲こそが、次の学びへつながる大切な種になります。経験を重ねながら自分で考え、推測し、確かめ、時には友達と考えを交流させながら、様々な事象について理解を深めていく経験は、自ら課題をみつけ、その課題をどう解決していくかを考える力の基礎ともなります。



今年度の「はじめのいっぽ」も、今号が最後です。年長の皆さんは4月から小学生ですね。新たに始まる学校生活でも、お友達や先生と一緒に新しいこと、学びに挑戦することを楽しみ、一人一人自分らしさを発揮していきましょう。0歳～年中の皆さんへは、次年度も引き続きお便りをお送りしながら本校の教育相談の取組についてお知らせしていく予定です。どうぞよろしく願いいたします。



グループ活動のご案内

- ◎ グループ活動「ミニ講座」「育児学級」「あそびのひろば」へ参加を希望される方は、**実施 1 週間前まで**にお申し込みください。締め切りを過ぎてのお申し込みについては、準備の都合上お断りする場合がございます。ご注意ください。
- ◎ 都合による参加のキャンセルにつきましては、早めにご連絡くださいますようお願いいたします。体調不良等による当日の欠席につきましては、電話（03-3943-5422）にてご連絡ください。

【育児学級】

各回講師を招き、テーマに沿った内容のもと、ご参加いただいた皆様と一緒に視覚に障害のある乳幼児の子育てについて考えていきます。

また、参加者全員で一緒に昼食を摂りながら、交流を深めます。

対象：0～2歳児（令和6年4月1日現在）とその保護者

方法：来校

日時：2月17日（月）10:15～12:15

内容：「みんなで楽しく♪～食事編②～」 講師：金居有香子先生（本校栄養教諭）

持ち物：お弁当、水分、他 各自必要な物

【あそびのひろば】

お家の人やお友達と一緒に遊びながら、生活経験、興味・関心の幅を広げていきます。

また、参加者全員で一緒に昼食を摂りながら、交流を深めます。

対象：2歳児（令和6年4月1日現在）とその保護者

方法：来校

日時：2月3日（月）10:15～12:15

内容：豆まきをしよう（幼稚部の子ども達と一緒に活動する予定です）

持ち物：お弁当、水分、他 各自必要な物

【ミニ講座】

視覚障害児の子育てや悩み等について、座談会形式でお話を進めます。

講師に猪平眞理先生（宮城教育大学名誉教授）、高見節子先生（本校元教諭）をお招きし、子育てについてのアドバイスをいただきます。

また、参加者同士、情報交換をしながら一緒に子育てについて考えます。

今年度最後の開催です。どうぞご参加ください。

対象：0歳児～就学前のお子さんをもつ保護者

方法：来校又はオンライン（ハイブリッド形式）

※接続情報はお申し込みをいただいた方へ直接ご連絡いたします。

開催日時：1月18日（土）10:00～12:00

◎ 今号も「れいちゃんのコラム」を掲載します。本コラムは、本校卒業生でもある高橋玲子さんが執筆されたものです。以下、玲子さんからの自己紹介です（5月号の再掲）

こんにちは。高橋玲子と申します。強度の弱視（小眼球）で生まれ、白内障が出て4歳ぐらいまでにはほぼ全盲になりました。

大学を卒業した後、玩具メーカーのタカラトミーでもう30年以上働いていて、趣味はクラシックの合唱です。複数の合唱団に混ぜていただいて、プロの楽団やソリストの方たちと一緒にステージで歌っています。

ご掲載いただく文章は、社会人になったばかりのころ、おもちゃで遊んでくださる視覚障害のある子どもたちの大人のご家族の方たちに楽しく読んでいただけたら…と願って職場で作っていた通信紙に連載したものです。大昔に書いたものでちょっとぴり恥ずかしいのですが、みなさまに読んでいただけること、とてもうれしいです。

「いいもの持って来たの！」

前回に引き続き、わたしの幼稚園時代のことを書きます。

「わたし、今日いいもの持ってきたの！」 卒園を間近に控えたころだったでしょうか、遊びに来た友だちのくみちゃんが、迎えに出たわたしに、庭先で声を弾ませて言いました。

「なにになに？ 見せて？」と出したわたしの手に、お菓子のおまけについているようなプラスチック製の小さなルレット（棒の先に鋭い歯車が付いていて、紙の上を転がすと裏側にミシン目のような浮き出した点線を描くことが出来るもの）……。

「ああっ！ ルレットだ！」と歓声を上げるわたしに、「これでわたしも玲子ちゃんに手紙書けるでしょ？ もう書いて来たよ。はい！」

幼稚園でわたしが持っていた紙工作セットには、いつも母が本物のルレットで書いてくれた切取線（細かい点線）と折り線（粗い点線）がついていて、友だちはみんな、ルレットで描かれた点線を見慣れていたのです。

さて、前回と同様に、それからどうしたのか、その手紙の内容がどんなものだったのかは全く覚えていないのですが、この瞬間の驚きとうれしさは、わたしの幼い記憶に深く残ることになりました。

くみちゃんは、そのルレットをわたしにくれたわけではありません。書いてくれた手紙の内容も、覚えていないのですから、それほど「感動的」ではなかったはずですが、では、6歳のわたしにとって、なにがそんなにうれしかったのでしょうか？

それは、くみちゃんがルレットのことを「いいもの」と呼んで、大切そうに持って来てくれたからではなかったか……と、今のわたしには思えるのです。彼女が、わたしにも分かる文字や絵を描きたいと思ってくれていること……、その時の「いいもの」という一言の中に、そんな彼女の気持ちを、わたしは感じとっていたのでしょう。ルレットは、わたしたちにとって、同じ文字や絵を共有するための、掛替えのない道具だったに違いありません。

幼稚園時代のわたしには、そんなうれしい経験が、数え切れないほどありました。

「新聞紙の上で、ボールペンでぎゅーって書いたんだけど……読める？」と不安そうに、誕生会への特製招待状を届けてくれた友だち。黒板に書かれた落書きを、「こんなへんなの描いてあるよ」とわたしの持っていたレーザーライター（ゴム板の上に特殊紙を乗せてボールペンで書くと浮き出して来るもの）に描き写して見せてくれた友だち。わたしが自分で虫を捕まえることの出来ないのを知りながら、「カマキリがいっぱいいるおれの秘密基地を見せてやる。虫かご持って来いよ」と言って、あこがれの補助無し自転車の後ろに乗せて遠くの原っぱにつれて行ってくれた友だち（幼稚園児の二人乗り計画を聞きつけた母は、真っ青になって、こっそり後を追いかけたのだそうです……）。そんな経験の一つ一つが、今のわたしの基礎を形作っているのです。そして、もちろん今も、日々だれかとなにかを共有するうれしさが、わたしの活力の源になっているように思います。

だれがどのように計算したのかは知らないのですが、一般に、人は情報の80%以上を視覚から得ると言われています。と言うことは、わたしは晴眼者の5分の1に満たない情報を基に物事を判断し、日々生きているのかもしれない。見たこと、聞いたこと、楽しい経験、悲しい経験、つらい経験……それらをわたしと共有したいと思ってくれる友だちを、一生涯のうちに一人でも多く得ることが出来たら……それが、今のわたしの一番の願いだと言えます。

幼稚部へ入学を希望されている方へ

本校幼稚部への入学を検討されている方にお知らせです。

本校幼稚部は、3歳児、4歳児、5歳児（4月1日現在）の方を対象に保育を行っています。幼稚部への入学をご希望の方、ご検討されている方の教育相談は随時行っております。どうぞ担当までお気軽にお声がけください。



教育相談に関するお問い合わせ・申し込みはこちら

筑波大学附属視覚特別支援学校 幼稚部（担当：早期教育支援部 高橋里子）

〒112-0015 東京都文京区目白台3-27-6

TEL 03-3943-5422（幼小直通） Mail ikujigakkyuu@nsfb.tsukuba.ac.jp

- ・ 教育相談は無料です。
- ・ メールの場合は必ずお名前・ふりがな（ご本人及び保護者）、生年月日（ご本人）、ご住所、ご連絡先を明記の上、お問合せ・お申し込みください。
- ・ 個別のご相談は随時お受けしております。ご希望の方はご連絡ください。
- ・ 相談者の居住地は問いません。オンラインでもご相談に応じます。お気軽にお問い合わせください。